ミャンマー 官民ミッション

2016年1月

MEJセミナー フォトセッションの様子

ヤンゴン総合病院訪問

ヤンゴン総合病院は1899年設立の1500床、スタッフ1800名を誇るミャンマーで最大規模の国立病院。当日は始めに病院側から病院概要の説明を受け、救急、画像診断、がん検診、画像診断、臨床検査の4グループに分かれて視察、質疑応答を行った。

放射線部門では主に病院が政府（保健省）予算で購入するのは欧米製品であり、日本製品の多くはJICAにより提供を受けたものとのこと。放射線医師は国内に300名程度しかおらず、慢性的に人員が不足しているとのこと。

パラミ総合病院訪問

パラミ総合病院は2011年リニューアルオープンされた65床の私立病院。小児科がメインとなるが、2年前より総合病院かを進めている。病院内には他の地域と接続したTelemedicine設備で患者の診断、セカンドオピニオンも行われている。

病院見学では昨年度グリーンホスピタルサプライ社と設立した透析センターや、平成27年度アウトバウンド事業「日本式医療施設整備運営プロジェクト」で設立したCTセンターを視察した。

（写真）CTセンターに設置された機器

ヴィクトリア病院訪問

最後に訪問したヴィクトリア病院は2011年に海外からのコンサルテーションを受けながら開設された100床の総合病院。他2病院と比較すると外観、内装が整備されており、コンビニやカフェなども設置されていた。

広報担当者による病院見学では救急や透析

2015年度ミャンマー官民ミッション開催

2016年1月8日~9日 ミャンマー・ヤンゴン

ミャンマーでの官民ミッションは昨年に続き2回目となった。今年は引き続きミャンマーに対する日本医療のアピールと昨年度構築された関係の強化を図ることを目的としてミッション派遣をした。

(写真)エントランスに設置された医療渡航(美容整形)のバナー

関連の施設以外に、日本の大雄会との提携により設立されたクリニックLEO Medicareも視察することができた。LEO Medicareでは現地ライセンスを取得した日本人医師1名が常駐している。

韓国が官民を挙げて医療渡航を売り込みしおり、エントランスにはバナーが設置されていた。

MEJセミナー開催

日時：2016年1月9日(土) 8:30~13:30

会場：PARKROYAL Yangon

主催：経済産業省、MEJ

後援：JICA、JETRO、MOH、PHF

参加企業：（一部略称）
EAJ、富士フイルム、日立製作所、メディヴァ、日本光電、オリンパス、PSP、シスメックス　計8社

講師：
兵庫医科大学　小谷主任教授
順天堂大学　林非常勤助教

ミャンマーで増加傾向にあるとされるがん及び喫緊の課題とされている救急医療及の2つをトピックスとしてセミナーを開催。医療関係者を中心に130名が来場した。

がんに関しては、ミャンマー側からはSoe Aung先生（ミャンマー腫瘍学会長）、日本側から林先生がそれぞれの国におけるがん診断に関する講演をした。救急に関してはミャンマー側からMaw Maw Oo先生（ヤンゴン総合病院）、日本側から小谷先生が救急医療に関する取り組みを実例を交えながら講演。小谷先生の講演で話のあったDisaster Managementについてミャンマー人来場者は興味を持っている様子だった。講演終了後は来場者が企業展示を見学。

保健省面談

保健省の調達部門であるCMSD (Central Medical Stores Depot)を迎えて、ミャンマーでの医療機器の調達のプロセス等についてヒアリングを実施。体制変更や、予算の確定スケジュールに関しても言及があった。ミャンマーにおける医療機器調達の課題は医療機器や医薬品の仕様等に関する専門知識、メンテナンス、サプライチェーンのマネジメント強化等とのこと。

（写真）保健省面談後の集合写真

JICA/JETRO意見交換会

JICA、JETROのミャンマー事務所との意見交換会ではJICA/JETROのミャンマーでの取り組みに始まり、大統領選挙の影響やミャンマーでの医療環境について説明があった。

政権交代の影響としては医療関連の政策には大きな変更は無いであろうとの見方をしつつも、想定出来ないことが多いので注視が必要とのこと。医療環境は医師の不足、高い、患者自己負担比率、ミャンマー政府の財政状況等を挙げ、人材教育を含めた自立した保険体制整備の重要性の説明があった。

編集：MEJ事務局